

ジンスホールディングスCEO

田中 仁氏

「第2創業期」を掲げ、事業会社の経営を息子が引き継いでいる。ただ日本の人口が減っており、世界にマーケットを広げたい。グローバル戦略を語るのに米国は欠かせない。人種・文化が多様で、難しい国だ。あらゆる人に直感的に理解できる購買体験製品やサービス

世界を視野に実験店

店舗を作れて初めて成功する。そのため実験店を11月にロサンゼルスに出店し、新しいモデルを作って逆輸入したい。今年、世界の企業を対象にESGへの取り組みや情報開示の観点で格付けするMSCI ESGレーティングで最高評価の「A」を初めて獲得した。これまでの取り組みが評価され、うれしかった。今後も地域に何ができるのか模索しつつ、新しいビジネスの在り方を示したい。

たなか・ひとし 1963年、前橋市生まれ。88年にジェイアイエヌを設立。2014年、起業支援・地域振興を目的に田中仁財団を設立。

BMZ常務取締役

高橋 大悟氏

みなかみ町で、人の健康を足から支えることを目指した商品・サービスを提供している。手がけるのは機能性インソールとシューズの研究開発・販売。赤子が続いていたが、2022年に成長期に入ったと実感しており、昨年度はインソールを260万足販売した。国内市場の拡大を

廃校活用し事業拠点

当社事業の成長につなげたい。4月に廃校となった中学校校舎の事業拠点への改修に着手した。開業は来年度の予定。「フットパーク」と呼んでおり、シミュレーターなどを設置して正しい歩き方や走り方を理想の足の状態を体感していただける場所にした。当社はBtoBが大きかったが、これを機にBtoCだけでなく、一般のお客さまにもおいでいただける場にして、みなかみ町にも貢献したい。

たかはし・だいご 1988年、みなかみ町生まれ。2019年、BMZに入社。統括管理部長を経て、24年8月より現職。

広田住宅センター代表取締役

広田金次郎氏

いわゆる「町の不動産屋」で、今年創業50周年を迎えることができた。経営は業種ではないが、空き家・空き地対策や不動産の相続コンサル、地域の活性化に関わることが生き残るために必要な要素だと感じている。先日、50周年記念イベントを開いたが、仕掛けがあれば大勢の人を集

地域情報の活用図る

められると実感した。不動産会社は一般の方よりも、地域の情報を多く持っている。それを生かせば、地域住民が交流できる場や機会をつくりたい。高齢者の見守りや買い物代行を請け負ったりするなど、提供できるサービスの質が増えるはず。空き家を二層に建ててリノベーションして活用するなど、一つ一つ明かりをともしていけば町は変わる。町が活性化すれば不動産屋も潤う。そう信じて事業を続けたい。

ひろた・きんじろう 1977年、高崎市生まれ。91年、23歳で広田住宅センター入社。2016年、同センターとグループ会社の代表に就任。

しものめ信用金庫常勤理事

高坂 豊氏

来年6月に創立100周年を迎える。皆さまの支援のたまものであり改めて感謝申し上げたい。来年12月までを周年事業期間とし「地域への感謝」をテーマにさまざまな取り組みを進めている。行事への参加やボランティアを通じて信用金庫人として地域との関係

経営課題解決を支援

性を再認識する機会と捉えている。取り組みは私たちにできる100のこととしてホームページで公開している。少子高齢化や後継者不足などが顕在化している。当金庫はお客さまと経営課題を共有し、共に解決していく。本業支援に力を入れている。人手不足や事業承継、M&Aなど、あらゆる経営課題解決をお手伝いし、100年後も必要とされる金融機関でありたいと願っている。

こうさか・ゆたか 1964年、前橋市生まれ。83年入庫。2019年に常勤理事に就任。前橋営業部長を経て、23年9月より法人営業部担当役員。

ジャオス代表取締役

赤星大二郎氏

四輪駆動車向け用品を製造販売している。1985年に東京(創業)、95年に群馬(工場)の竣工を経て2000年に統合。来年40周年を迎える。先月、念願の新社屋が完成した。とや、11月にメキシコで開かれる北米最大規模のオフロードレース「パハ1000」に参加することなどを

車好きに響く商品を

紹介しようという新聞広告を初めて掲載した。キャッチコピーに選んだのは「轍」という文字。英語なら「トラック」だろうか。父が創業した会社だがその轍を四輪駆動車でしっかりとクリップし、この先も進んで行くという気概を込めた。当社は車好きな方にはよく知っていた。マニアからさらに一般のユーザーへ向けても響くものを作り続けていきたい。

あかほし・だいじろう 1972年、東京都生まれ。大学卒業後、カナダで3年間過ごす。97年にジャオス入社。2008年から現職。

# 地域と共に成長を

## 群馬イノベーションアワード2024・トップ座談会①

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2024」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)の実行委員と協賛社によるトップ座談会。企業を取り巻く環境が厳しさを増す中、どんな戦略で乗り切るのか。座長の田中仁・ジンスホールディングスCEOが語り合った。(今回は10月23日掲載)



JR東日本高崎支社長

樋口 達夫氏

鉄道会社としては、まず新幹線が敦賀まで延伸された。これを機に福井の人の目を群馬にも向けさせた。コロナ禍が収束しても乗客は完全には戻っていない。在宅勤務が増え、ビジネス輸送が減った。だからこそ「駅に来てほしい」と、高崎駅・前橋駅の開業140周年イベントは、地

地域と共に活動を

元の人と一緒に盛り上げる工夫を凝らした。県と共に取り組んだ「ぐんまちゃん駅」やプラットフォームを提供している「グンマス」も連携の一例。温泉文化の普及を目指すキャンペーンも県民と協力して始めた。人や物の輸送だけでなく、地元とオンラインの関係をつくりたい。従来の仕事をDXに置き換え、女性でも取り組めるよう、模索しつつ進めている。

ひぐち・たつお 1967年、茨城県生まれ。東京大卒。マーケティング本部戦略・プラットフォーム部門長などを歴任。昨年6月から現職。

みずほ銀行高崎支店長

遠藤祥日郎氏

今年、新紙幣の顔となった渋沢栄一はみずほの源流となる第一国立銀行を設立。渋沢のDNAを受け継ぎ、社会課題解決への貢献が利益につながるという理念を実現したい。新「ハラス」ともに挑む、ともに実る。このつとめ、自治体や地元企業、金融・教育機関など共に挑戦

課題の解決を利益に

し、地域創生という美りを生み出していく。電子地域通貨「高崎通貨」はその一例。メガバンクの「情報」、グループ会社の「機能」、ネットワークに基づく「顧客基盤」の強みを生かし、社会・地域に貢献したい。新興企業支援を渋沢のDNA。専門法人部や審査部を設立して対応力を強化。宇宙ビジネスなどディープテック領域のリスクマネー供給に挑戦し、群馬から世界に羽ばたくインベション企業輩出に貢献したい。

えんどう・しょうじろう 1971年、大分県生まれ。96年入行。営業部、融資企画、人事、営業企画推進本部勤務を経て、2022年より現職。

共愛学園前橋国際大副学長

後藤さゆり氏

2026年4月の「デジタル共創学部」の新設を目指している。本学は文系の国際社会学部しかなかったが、認可されれば新たに理学部が誕生することになる。新学部は、デジタル技術の知識を生かして、他者と共にウェルビーイングな社会を創出できる人材を育成

文理融合総合大学へ

する。データサイエンスは国際社会学部でも必修科目としているが、新学部ではより高度なDXの内容を学んだ後「ICT」「マネジメント」「ウェルビーイング」の専門分野に分かれて学ぶ。企業と連携できる制度の活用も視野に入れている。また教員養成課程も新しくなる。短大改組で幼児教育・保育コースを4年制に組み込み、ゼロ歳児から高校生まで対応する総合的な保育・教育人材の養成が実現する。

ごとう・さゆり 1962年、さいたま市生まれ。博士(教育学)。2005年、共愛学園前橋国際大に入職。教学マネジメント担当。16年から現職。

石川建設代表取締役社長

石川 雅之氏

4代目の社長に就任した時、脱オーナー経営に向けてビジョンを立てた。方針を社員と共有し、それに基づいて取り組みを進めた。その結果「社長に聞かないと分からない」といった指示待ち体質から脱皮できた。経営上、重視しているのは顧客満足度の追求。メンテナンスに不満を

顧客満足追求に尽力

持つお客さまが多いため、約20人を配置して顧客サービスの充実に力を入れている。DXも導入している。仕事を始める前にデジタル技術で建物を見ていただき、完成予想をイメージしてもらおう。おかげで多くのお客さまに喜んでいただいている。10月に第80期がスタートした。第2ステージと捉え「変わる石川」、選ばれた石川を掲げた。基本に立ち返り、安全とさらなる品質向上を目指す。

いしかわ・まさゆき 1964年、太田市生まれ。大学卒業後、大手建設会社勤務を経て石川建設に入社。2014年から現職。



※掲載は座談会当日の発言順です

GIA 2024協賛社

- ▶実行委員/ジンスホールディングス、オープンハウスグループ、カインズ、群馬銀行、上毛新聞社
- ▶特別協賛社/セガサミーホールディングス、冬木工業、糸井ホールディングス、ファームドグループ
- ▶特別パートナー/コシダカホールディングス、相模屋食料
- ▶パートナー/相川管理、赤尾商事、アサヒ商会、アゼット、石井設計、石川建設、石田屋、いちもん、うすい、ATホールディングス、NTT東日本群馬支店、emusalon、オルビス、カネコ種苗、共愛学園前橋国際大学、グシダ工業、グリーンライフ&野菜くらぶグループ、グルメフレッシュ・フーズ、群馬トヨタグループ、KJ Internacional、コレイ、国際警備、JR東日本高崎支店、JTB群馬支店、シャオス、ソウワ・ディライト、ダイコー、太陽誘電、大和ハウスリアルティマネジメント、高崎健康福祉大学、高崎佐藤眼科、田子会計事務所、中央カレッジグループ、永井造造、西建、花助、HAWORD、BMZ、広田住宅センター、富士スバル、プリマペーラ、ボルテックス、前橋園芸、増田煉瓦、マルエドラッグ、宮下工業、メモリード、ヤマト、ユナ厨房
- ▶フィナンシャルサポーター/アイオー信用金庫、北群馬信用金庫、桐生信用金庫、群馬県信用保証協会、しものめ信用金庫、大和証券高崎支店、高崎信用金庫、東京海上日動火災保険、東和銀行、日本政策金融公庫前橋支店、高崎支店、野村證券高崎支店兼太田支店、みずほ銀行前橋支店・高崎支店、みずほ証券高崎支店、三井住友銀行北関東法人営業第一部、三菱UFJモルガン・スタンレー証券大宮支店